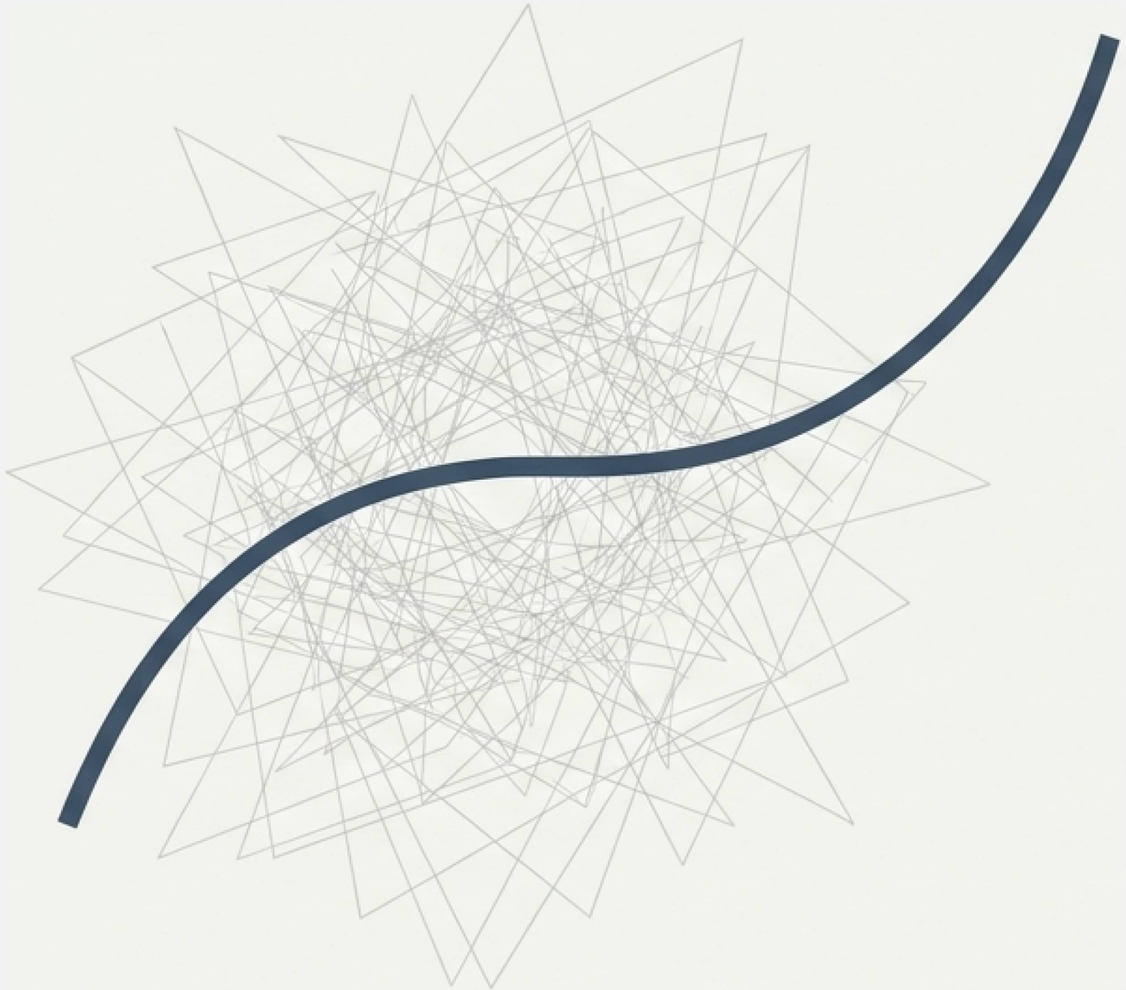


日本市場で「アルファ」を解き放つ3つのカタリスト

転換点に立つJACK注目銘柄・ファンドの深層分析

再生・革新・対話がもたらす超過収益の源泉

超過収益を生む3つのアプローチ



【再生】ターンアラウンド

対象: THE WHY HOW DO COMPANY（3823）

カタリスト: 疑義注記解消と黒字転換

長きにわたる負の歴史を払拭する劇的な業績V字回復。強力なスポンサーシップとM&A戦略によるバリュエーションの再評価。



【革新】ディスラプション

対象: トグルホールディングス (652A)

カタリスト: AI×不動産による未流通土地の創出

圧倒的な売上成長と著名創業者による高い期待値。需給（吸収金額）とマクロ環境（金利）の綱引きの中でアルファを狙う。



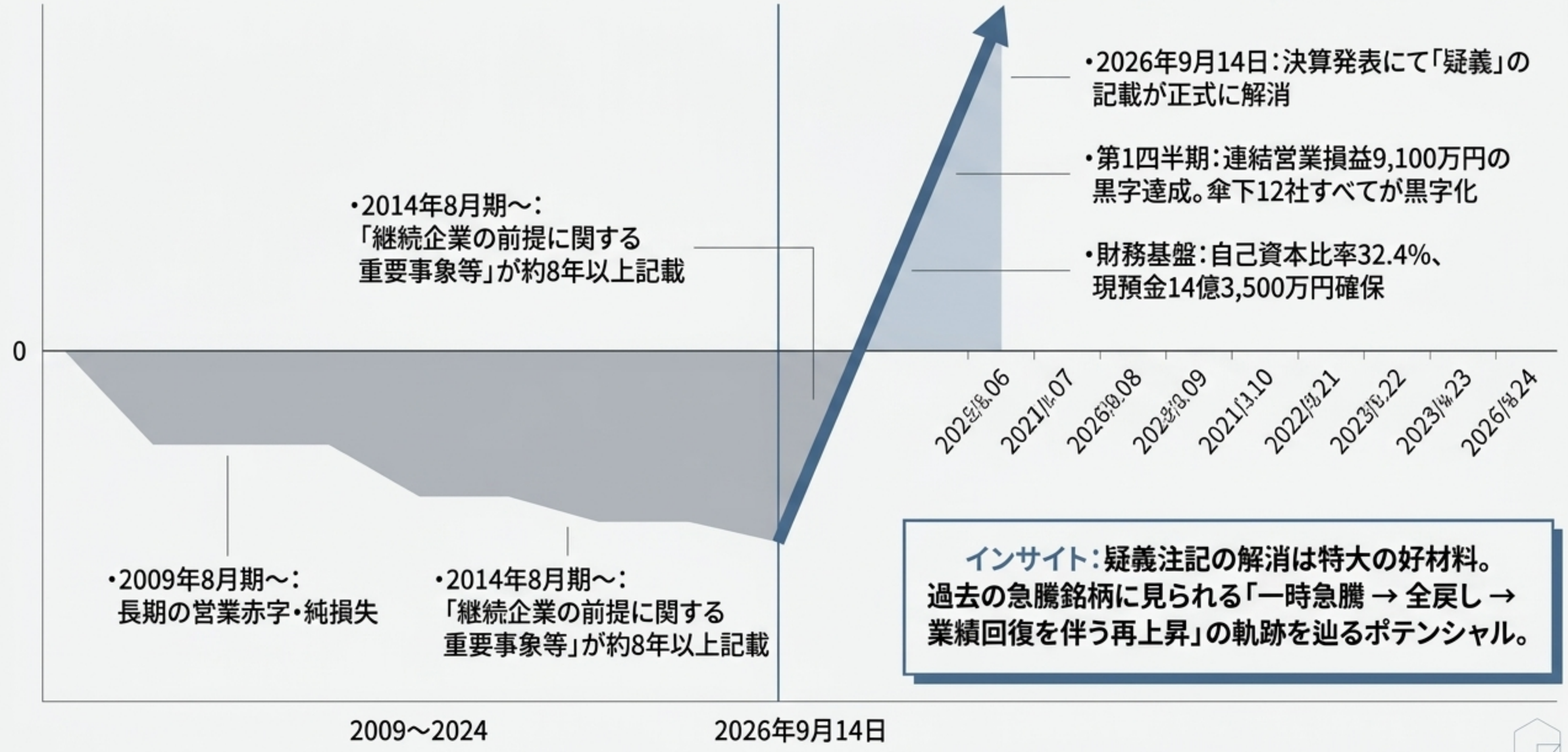
【対話】アクティビズム

対象: マネックス・アクティビスト・ファンド

カタリスト: PBR是正要請と投資家の束ね

個人の小口資金を巨大な議決権に変換。経営陣への直接エンゲージメントを通じ、企業価値を強制的に解放する。

【再生】THE WHY HOW DO COMPANY(3823)のV字回復



インサイト：疑義注記の解消は特大の好材料。
過去の急騰銘柄に見られる「一時急騰 → 全戻し → 業績回復を伴う再上昇」の軌跡を辿るポテンシャル。

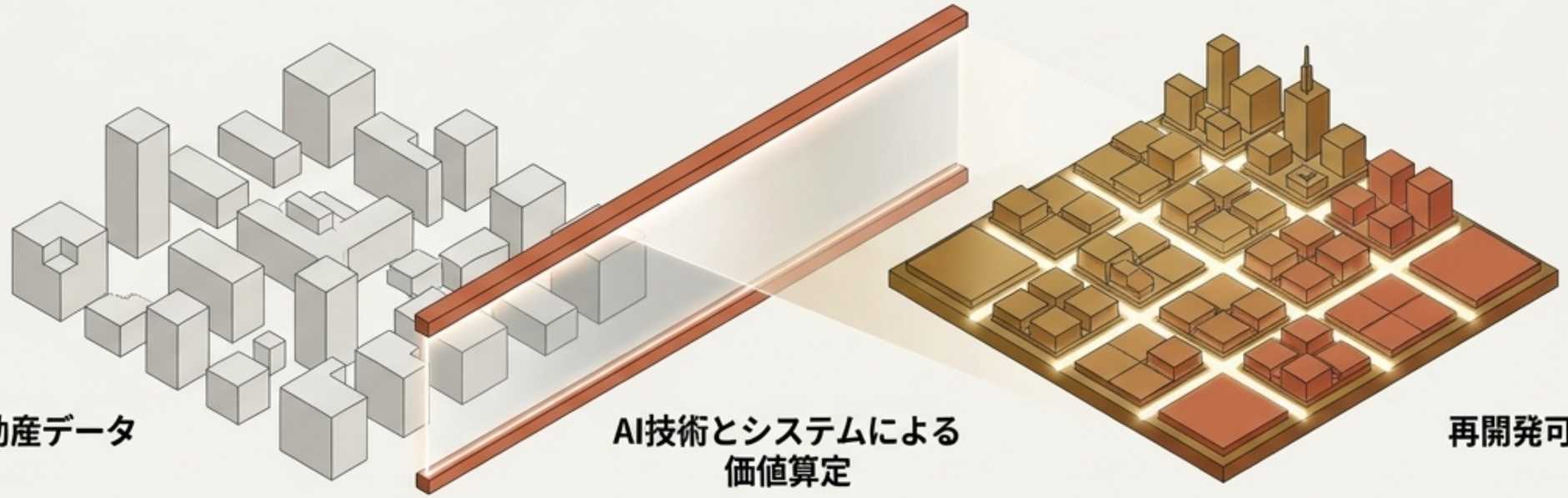
ワイハウを牽引する2つの成長エンジン



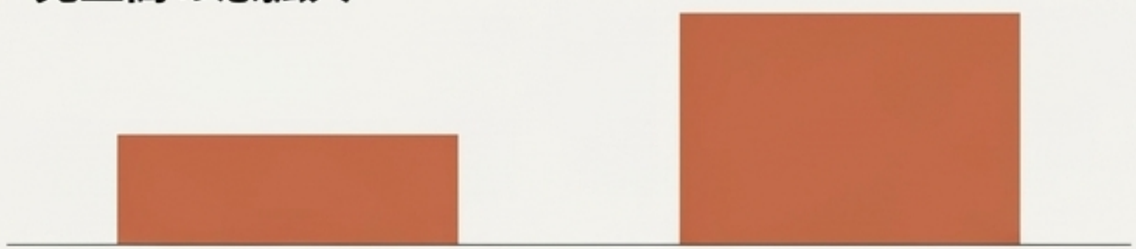
- 主力事業の完全なピボット（ライフスタイル・ITインフラ系の中小企業へ）
- 焦点: 第2四半期以降の本業の利益継続性
- 追加カタリスト: 純金活用の株主優待制度、新規事業提携の可能性

- エンタテインメント事業トップとしてAI×音楽プロジェクトを主導
- 2026年9月18日付でPavilions社を完全子会社化
- 対価として親会社の普通株式200万株が交付
- 保有割合約1.3%の大株主として中長期の企業価値向上に寄与

【革新】トグルホールディングス（652A）の破壊的アプローチ



- **売上高の急拡大**



- **不動産仲介業としては異例の粗利の高さと利益の急上昇期待**

- **「AI×不動産データ」のアルファ創出**

  複数の土地を一体化する前から価値を算定し、市場に流通していない土地を発掘。

- **創業者プレミアム**

  代表・伊藤嘉盛氏。過去にリアルエステートテック「イタンジ」を創業・売却。市場からの知名度と期待値が極めて高い。

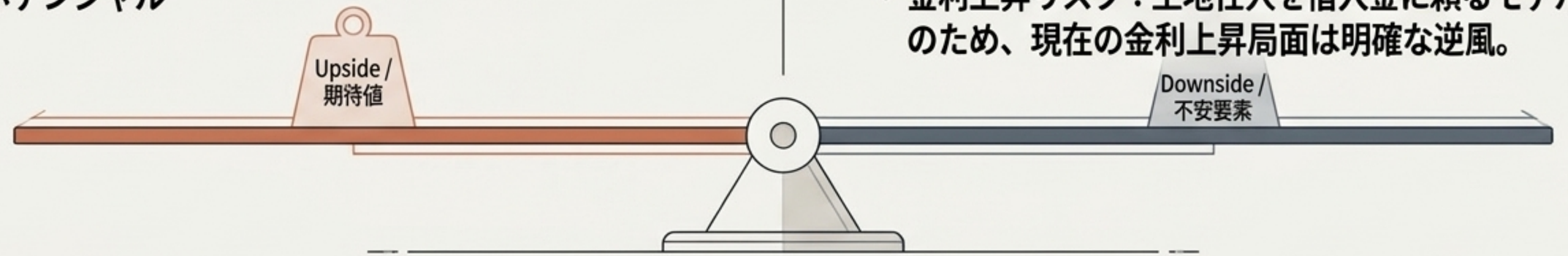
成長期待 vs 需給の重さ：ミドルリスク・ミドルリターンの構造

期待値（テーマ性と人気）

- 不動産テックIPOの高いテーマ性と市場からの熱狂
- 全国委託販売団の申込社数：60社（比較：同月別案件は38社）。プロの高い関心。
- 上場タイミングが良く、初値売りでも利益が出るポテンシャル

不安要素（需給とマクロ環境）

- 巨大な吸収金額：「156億円」。東証グロース市場としては極めて大きく、強烈な荷もたれ感。
- 実態は不動産業：売上高の99.5%は実際の土地の仕入販売。
- 金利上昇リスク：土地仕入を借入金に頼るモデルのため、現在の金利上昇局面は明確な逆風。



診断: 成長ストーリーは極めて強力だが、需給の重さとマクロ環境の摩擦を考慮したミドルリスク・ミドルリターン案件。

【対話】マネックス・アクティビスト・ファンドの構造的テコ



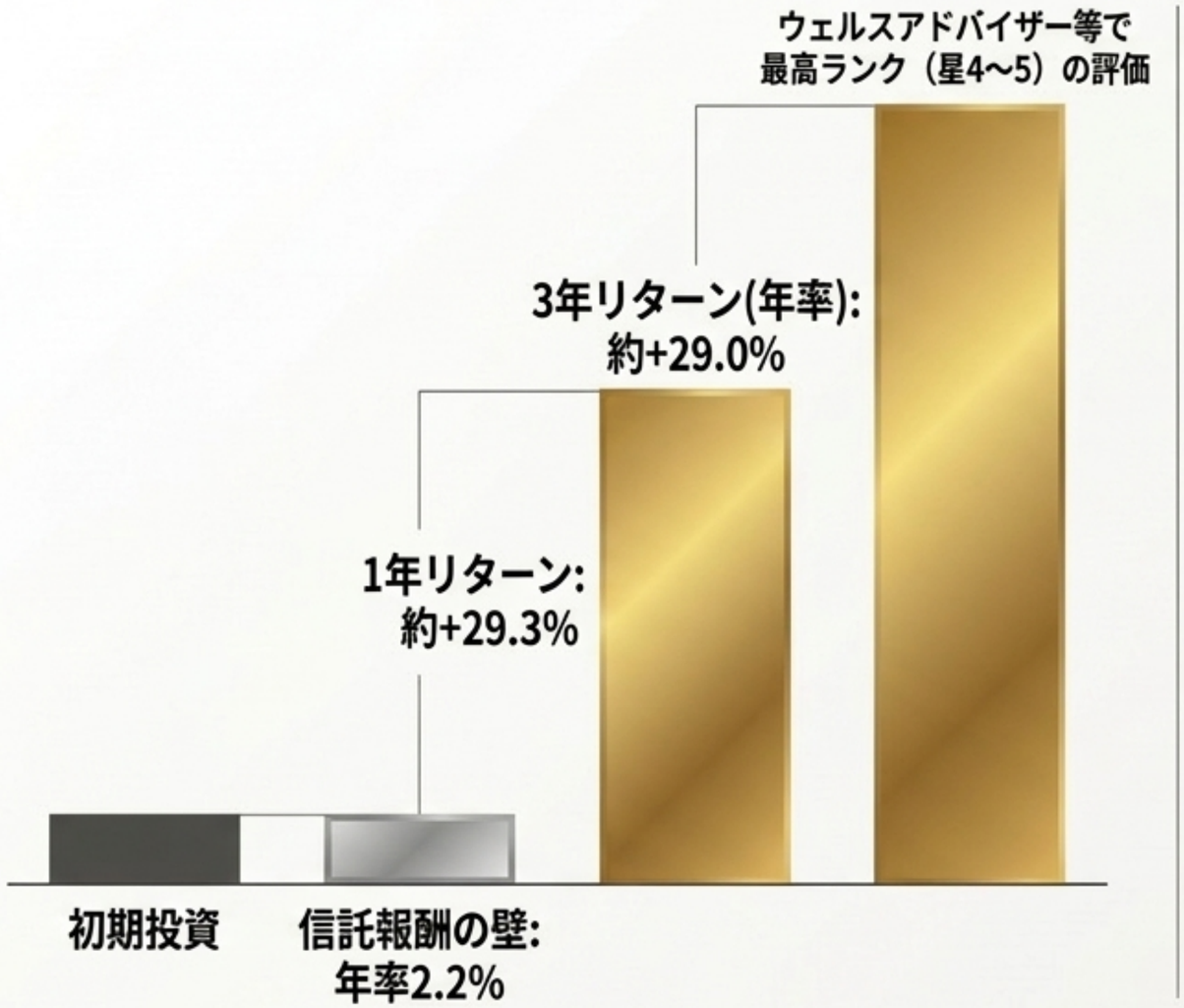
資本の集約と法的権利

個人投資家の資金を束ねて買い占めることで、法律上の「株主提案権」を獲得。大株主様からのアポイントとなり、経営トップが直接対応せざるを得ない状況を作出。

強力な構造的追い風

東証の「PBR1倍割れ是正」要請がファンドの戦略を後押し。大日本印刷やTBSなど、大企業が実際に提案を受け入れ株価が上昇する成功事例が蓄積。

コストの壁を凌駕するパフォーマンスの源泉



高い手数料を正当化する具体的アクション

裏での交渉だけでなく、公の場での書簡送付や
株主提案を辞さない実力行使

- ☑ 「現金を貯め込んでいるなら、自社株買いや増配で株主に還元せよ」
- ☑ 「本業に関係のない他社の株（政策保有株）は全て売却し事業資金にせよ」
- ☑ 「儲かっていない赤字事業は、他社に売却するか即時撤退せよ」

ポートフォリオ統合：3つのアルファ・カタリスト比較マトリックス

	ワイハウ（3823）	トグルHD（652A）	マネックス・アクティビスト
テーマ	再生（Turnaround）	革新（Disruption）	対話（Activism）
主要カタリスト	疑義注記解消・M&A黒字化・小室哲哉氏参画	AI×不動産の高成長・プロの高い注目度（60社）	投資家の束ね（大株主化）と東証PBR改革
リターン特性	V字回復時のボラティリティ（過去のテンバガー事例）	ミドルリスク・ミドルリターン（初値期待）	インデックスを大きく凌駕する年率約29%の実績
最大のリスク	M&A企業の継続的な利益創出能力	156億円の吸収負担・金利上昇の逆風	長期保有における年率2.2%超の高コスト

結論: 市場のノイズに惑わされず、自らの投資ホライズンとリスク許容度に合わせた「カタリスト」を選択することが、現在の日本株市場におけるアルファ獲得の絶対条件である。